

人がつながる田園都市 安芸高田



「人がつながる」

“つながる”とは、生活・地域・社会を支える目に見えない絆・基盤としての社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）といえます。地域の自然・環境との“つながり”、地域に暮らす多様な人との“つながり”、地域の歴史・生活文化との“つながり”などです。

「人がつながる」の中には、「いのちの連続性の実感」や「災害時等の共に助け合う（自助・共助）」ということ、「多世代・多文化間のコミュニケーションの広がり」。もっと言えば、「歴史がつながり伝統が継承される」、「地域・社会の知恵の継承」とか、「地域ビジネスが生まれ、地域経済が循環する」ということにもつながると言えます。

また、安芸高田市で言えば、6つの町がつながり、32の地域振興組織がつながるといふことにもなります。

地域資源を媒介に、人と人、人と地域の時間的・空間的“つながり”を紡ぎ、いのちと暮らしの基盤の再生を目指します。

「田園都市」

田園と山並みの豊かな緑、清流に囲まれた歴史と伝統ある落ち着きを生かしながら、都市的魅力と田園の安らぎが共生した快適でうるおいのある生活空間や、「安心」と「ゆとり」を備えた住みやすさ、多様な働く場が確保されたまちを目指します。

※田園都市には、「豊かな自然環境に恵まれた都市」という一般的な意味と、1898年にイギリスのE・ハワードが提唱した新しい都市形態という、2つの意味がある。

ハワードの提案は、人口3万人程度の限定された規模の、自然と共生し、自立した職住近接型の緑豊かな都市を都市周辺に建設しようとする構想である。そこでは、住宅には庭があり、近くに公園や森もあり、周辺は農地に取り囲まれているというもの。【ウィキペディア フリー百科辞典より】